

I 第33週の発生動向 (2011/8/15~2011/8/21)

- 手足口病については、弘前保健所管内において第26週から、東地方+青森市保健所、八戸保健所、五所川原保健所及び上十三保健所管内において第31週から、むつ保健所管内において第32週から、**警報**が継続しています。
- 流行性耳下腺炎については、八戸保健所管内において**注意報**が発令され、上十三保健所管内においては第27週から**警報**が継続しています。

II 第33週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

青森県内の定点(医療機関)数については青森県感染症発生動向調査TOPページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 +内科 (85) インフルエンザ														0					
小児科 (74) RSウイルス感染症	6	0.7					1	0.2					7	0.2	1			6	0.8
(75) 咽頭結膜熱			4	0.4					1	0.2			5	0.1	-7				
(76) A群β溶血性レンカ球菌咽頭炎	3	0.3	1	0.1	2	0.3			1	0.2			7	0.2	-3			3	0.4
(77) 感染性胃腸炎	16	1.8	8	0.9	6	0.8	1	0.2			7	2.3	38	1.0	8	4	4.0	12	1.5
(78) 水痘	6	0.7	5	0.6	5	0.6	3	0.6	2	0.3	4	1.3	25	0.6	2			6	0.8
(79) 手足口病	136	15.1	124	13.8	66	8.3	42	8.4	114	19.0	20	6.7	502	12.6	11	15	15.0	121	15.1
(80) 伝染性紅斑			3	0.3					2	0.3	1	0.3	6	0.2	-6				
(81) 突発性発しん	10	1.1	9	1.0	5	0.6	2	0.4	8	1.3	2	0.7	36	0.9	12	2	2.0	8	1.0
(82) 百日咳														-1					
(83) ヘルパンギーナ	47	5.2	29	3.2	7	0.9	3	0.6	23	3.8	2	0.7	111	2.8	22	2	2.0	45	5.6
(84) 流行性耳下腺炎	12	1.3			25	3.1	1	0.2	15	2.5	3	1.0	56	1.4	-14			12	1.5
眼科 (86) 急性出血性結膜炎														0					
(87) 流行性角結膜炎	2	1.0	2	0.7	4	2.0	1	1.0					9	0.8	0			2	1.0
(92) クラミジア肺炎														0					
基幹 (93) 細菌性髄膜炎														0					
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	6	6.0					1	1.0	8	1.3	-1				
(96) 無菌性髄膜炎														0					

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出状況は速報値です)

(9) 結核(二類全数把握疾患)：五所川原1人、むつ1人(23年計:264人)

(15) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：弘前1人(23年計:18人)

IV 病原体検出情報 ※ () 内は、検査材料及び検体採取日、患者数です。

・感染症発生動向調査による病原体検出については、以下のとおりです。

下気道炎患者2名(咽頭ぬぐい液、鼻汁、7/5~7/27)・・・**マイコプラズマ**：弘前(2)

上気道炎・下気道炎・発疹症患者1名(咽頭ぬぐい液、糞便、8/8)・・・**コクサッキーウイルスA6型**：八戸

発疹症患者1名(咽頭ぬぐい液、8/1)・・・**ヒトヘルペスウイルス6型**：青森

発疹症、麻しん疑い患者1名(血液、8/10)・・・**ヒトヘルペスウイルス6型**：五所川原

ヘルパンギーナ疑い患者1名(咽頭ぬぐい液、6/24)・・・**アデノウイルス5型**：弘前

感染症の窓

手足口病 (五類定点把握疾患)

手足口病は、主にコクサッキーA16、エンテロウイルス 71 等のエンテロウイルスによる感染症です。

症状は、口腔粘膜及び四肢末端に現れる水疱性の発疹が特徴ですが、すべての部位の症状が揃わないこともあります。また手足全体、肘、膝、臀部周辺に発疹が現れることもあります。発症者の約 1/3 に軽度の発熱がありますが、高熱が続くことは通常ありません。

急性期に最も感染力が強く、飛沫感染、糞口感染、水疱内容物からの直接感染が生じます。症状が回復した後も 2~4 週間便からウイルスが排泄されることがあります。感染予防には手洗いの励行が大切です。(「感染症の診断・治療ガイドライン 2004 日本医師会監修」参考)

今年は全国的に大流行しており(図 1)、県内でも、すべての保健所管内に警報が発令されています。また年齢層別では1歳以下で届出数が最も多くなっています(図 2)。

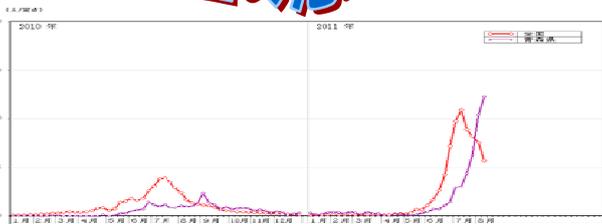


図1 2010~2011年の届出数

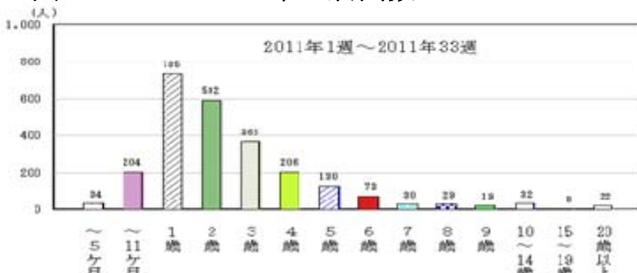


図2 年齢別届出数

VI 保健所管内別全数把握疾患発生状況（青森県）（届出数は速報値です）

単位：人 2011年第13週～第32週

週	期 間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
13	H23.3.28 ~ H23.4.3						
14	H23.4.4 ~ H23.4.10						
15	H23.4.11 ~ H23.4.17			アメーバ赤痢1人		麻疹1人	
16	H23.4.18 ~ H23.4.24						
17	H23.4.25 ~ H23.5.1			レジオネラ症1人			
18	H23.5.2 ~ H23.5.8						
19	H23.5.9 ~ H23.5.15	つつが虫病1人					
20	H23.5.16 ~ H23.5.22				つつが虫病1人		
21	H23.5.23 ~ H23.5.29			つつが虫病1人			
22	H23.5.30 ~ H23.6.5	つつが虫病2人					
23	H23.6.6 ~ H23.6.12	つつが虫病1人	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 バンコマイシン耐性腸球菌感染症1人		つつが虫病1人	麻疹1人 つつが虫病1人	
24	H23.6.13 ~ H23.6.19		梅毒1人	急性脳炎1人			
25	H23.6.20 ~ H23.6.26		腸管出血性大腸菌感染症1人			つつが虫病1人 梅毒1人	つつが虫病1人
26	H23.6.27 ~ H23.7.3	つつが虫病2人	つつが虫病2人			梅毒1人	
27	H23.7.4 ~ H23.7.10					後天性免疫不全症候群1人	
28	H23.7.11 ~ H23.7.17	レジオネラ症1人 破傷風1人	腸管出血性大腸菌感染症2人 破傷風1人			腸管出血性大腸菌感染症1人	
29	H23.7.18 ~ H23.7.24		腸管出血性大腸菌感染症1人			腸管出血性大腸菌感染症1人	
30	H23.7.25 ~ H23.7.31		腸管出血性大腸菌感染症3人 後天性免疫不全症候群1人	クロイツフェルト・ヤコブ病1人			
31	H23.8.1 ~ H23.8.7					つつが虫病1人	
32	H23.8.8 ~ H23.8.14						

VII 結核(二類全数把握疾患)

単位：人 2011年第13週～第32週

週	期 間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
13	H23.3.28 ~ H23.4.3	1	2	2		1	
14	H23.4.4 ~ H23.4.10	2	2	6	1	2	
15	H23.4.11 ~ H23.4.17	1	2	4	1		
16	H23.4.18 ~ H23.4.24	4		4	3		
17	H23.4.25 ~ H23.5.1	1	1		1		
18	H23.5.2 ~ H23.5.8	1	1	1	2		
19	H23.5.9 ~ H23.5.15		2	2	3	1	
20	H23.5.16 ~ H23.5.22	2		1			
21	H23.5.23 ~ H23.5.29	1		5	3	3	
22	H23.5.30 ~ H23.6.5	2	2		1	1	
23	H23.6.6 ~ H23.6.12	1	2		2		
24	H23.6.13 ~ H23.6.19	1	5	5	2		
25	H23.6.20 ~ H23.6.26	1	1	8	1	6	3
26	H23.6.27 ~ H23.7.3	1	1	2		1	
27	H23.7.4 ~ H23.7.10		3	10		6	
28	H23.7.11 ~ H23.7.17	1		10	1	3	
29	H23.7.18 ~ H23.7.24	1	1	3		4	
30	H23.7.25 ~ H23.7.31	1	1	3	2		3
31	H23.8.1 ~ H23.8.7	2		2	2	5	
32	H23.8.8 ~ H23.8.14	3		2	2	1	

VIII 全数把握疾患発生状況（全国-青森県）

（注：届出状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

2011年8月23日10時集計速報値

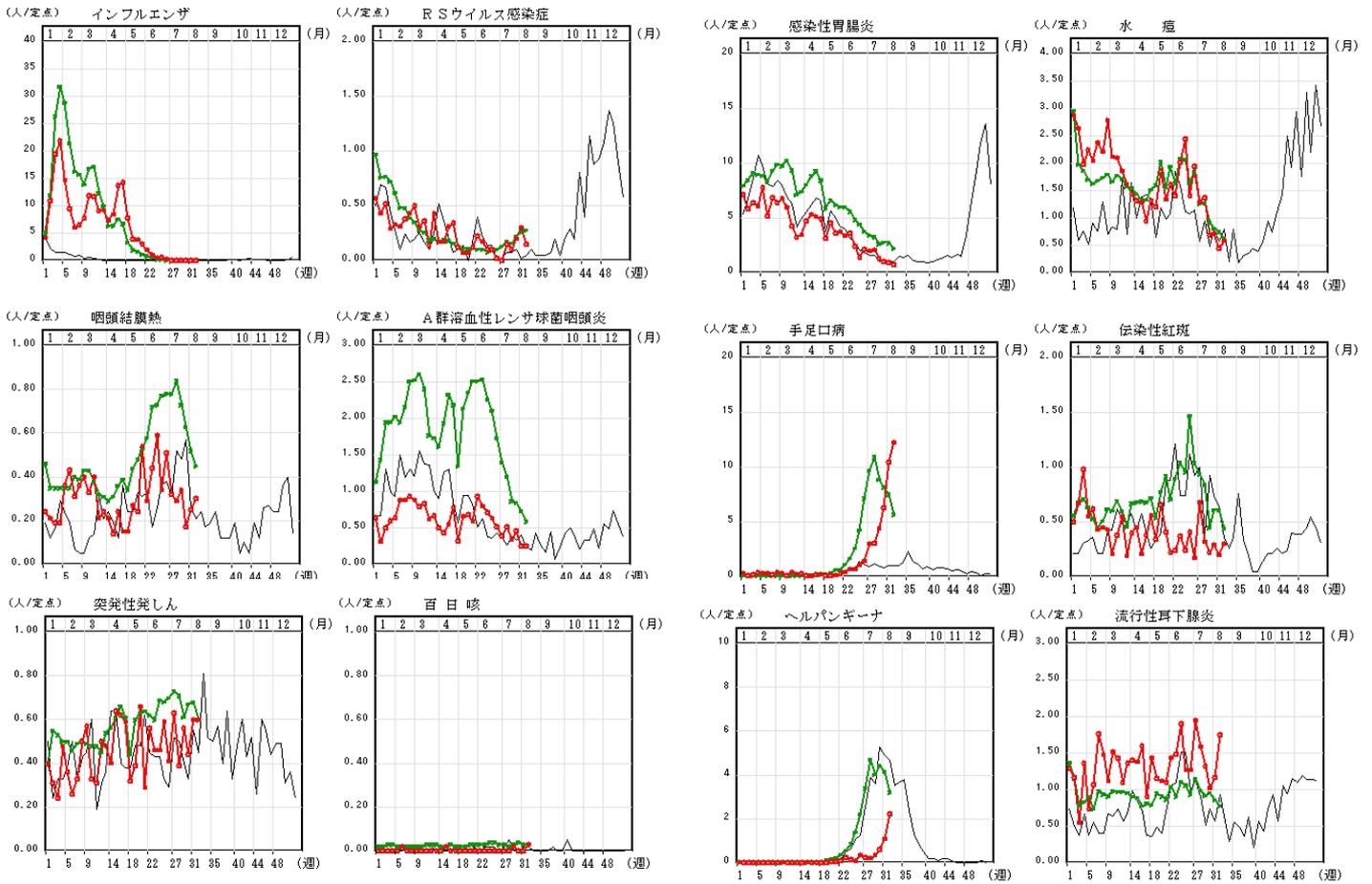
	二類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
	急性灰白髄炎	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	コクシジオides症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ポツリクス症	マラリア	ライム病
全国	1	18643	5	124	2458	14	17	38	141	12	11	2	5	161	57	58	2	3	43	5
青森県	0	263	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0

	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹		
全国	1	435	6	491	161	192	6	76	148	884	43	7	1	469	71	33	292	389		
青森県	0	2	0	1	0	2	0	1	2	2	0	0	0	5	2	1	0	2		

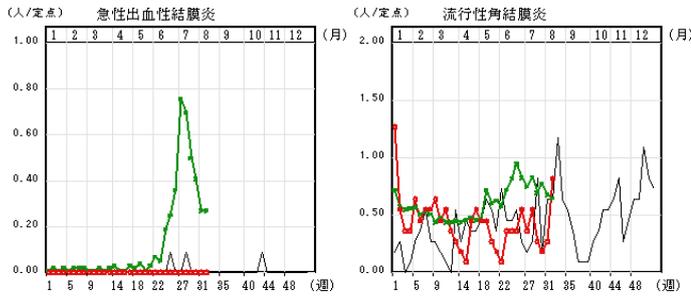
グラフの説明 ○—○は 2011 年青森県、——は 2010 年青森県、○—○は 2011 年全国

IX インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移

2011 年第 32 週



X 眼科定点把握疾患週別推移 2011 年第 32 週



XI 基幹定点把握疾患週別推移 2011 年第 32 週

